

松屋筆記

卷廿一

15  
1397  
5



15  
號 1397  
卷 5

54

昭和五年三月七日  
高田早苗



松  
 葉  
 集  
 卷  
 之  
 一  
 上  
 卷  
 之  
 一  
 上

乃以十二角

1. 松屋筆記卷廿一目録  
 2. 小冠<sup>カサネ</sup>珠<sup>たま</sup>  
 3. 扇<sup>アヒ</sup>の骨<sup>ほね</sup>杖<sup>つえ</sup>橋<sup>はし</sup>と藪<sup>くさ</sup>  
 4. 四<sup>よ</sup>行<sup>ゆき</sup>の絹<sup>ぬい</sup>  
 5. 本<sup>ほん</sup>跡<sup>あと</sup>の茶<sup>ちや</sup>  
 6. 味<sup>あじ</sup>噌<sup>そう</sup>の味<sup>あじ</sup>噌<sup>そう</sup>々<sup>々</sup>  
 7. 将<sup>しょう</sup>昇<sup>しょう</sup>本<sup>ほん</sup>倒<sup>たう</sup>  
 8. 定<sup>じやう</sup>家<sup>か</sup>の<sup>の</sup>定<sup>じやう</sup>家<sup>か</sup>  
 9. 遠<sup>えん</sup>道<sup>だう</sup>行<sup>ぎやう</sup>

松屋筆記卷廿一目録

- ① 小冠<sup>カサネ</sup>珠<sup>たま</sup>の飯<sup>いひ</sup>の糊<sup>か</sup>
- ② 扇<sup>アヒ</sup>の骨<sup>ほね</sup>杖<sup>つえ</sup>橋<sup>はし</sup>と藪<sup>くさ</sup>
- ③ 四<sup>よ</sup>行<sup>ゆき</sup>の絹<sup>ぬい</sup>
- ④ 本<sup>ほん</sup>跡<sup>あと</sup>の茶<sup>ちや</sup>
- ⑤ 味<sup>あじ</sup>噌<sup>そう</sup>の味<sup>あじ</sup>噌<sup>そう</sup>々<sup>々</sup>
- ⑥ 将<sup>しょう</sup>昇<sup>しょう</sup>本<sup>ほん</sup>倒<sup>たう</sup>
- ⑦ 定<sup>じやう</sup>家<sup>か</sup>の<sup>の</sup>定<sup>じやう</sup>家<sup>か</sup>
- ⑧ 遠<sup>えん</sup>道<sup>だう</sup>行<sup>ぎやう</sup>

十 孫庇

十一 枚隠子 并唐紙障子

十二 衣紋 并鉄漿ラ附ル

十三 三献 七献九献

十四 供脚 カケシムコシ物カベホリ

十五 物ウツホオ オダリオダリヤシ

十六 夏、右

十七 所 并中居の厨子所

十八 三度の供脚

十九 右 名鐘名杯

二十 大 ウサキと云

二十一 執事 并管領

二十二 録 倉と云名執

二十三 年代記 永祿元年刊本抄

録

二十四 金鼓 鷲に

二十五 又 アノの紋

二十六 三賢 一敬書 後書

二十七 前 解記

廿三 慶長三年 朝鮮渡海の軍

勢

廿四 朝鮮人唐人の肩敷

廿五 豊玉太閤の遺書

廿六 画の人形血の涙と流る

廿七 夷こ節殿

廿八 貧賤はく神

廿九 あやむき并乃りく多びす

三十 大黒の櫃并俵袋大黒有

三十一 船の帯

三十二 天狗兵衛

三十三 梅津長者画巻中考證と俵

づき画

三十四 一夜千本の木生次

三十五 金燈籠并庄園右領俵

杉本筆記巻廿一

源光房文儒傳

○ビノ始ビノ飯ビノ糊

覚禪勤經  
部中の清雨  
經法を比來  
神三石三  
伊比良  
ナニ比女敵  
アリ  
ヒ不物ノ剛ニカテ  
秘ナル三三ヒンモヒノ  
秘ナドモリ

此の糊は和名抄まじりて今の名は  
の飯のよしし粥のサキキ物といふ  
イウくは強飯といふ事よ  
蒸つる飯も用万を子  
クモノスギキテ  
蒸まらんとあつても  
藤芥り中の公家  
飯者強飯也

資益王日記  
 明應十年正月  
 日一日の事  
 諸社之庭拜  
 之後三社有  
 之社有之  
 如云云

執柄家ホヤシ 地飯左分略致也  
 但人々依好惡用之元之りやえ續飯  
 粉をい強飯の甘味は糖飯とも用ま  
 多のりナリとも子こヒナ始とりあは  
 帯い強飯地用る中なるは糖飯地  
 今也用るにふさるみるもこヒナシナは  
 夕キおしの飯ともいふもあのみヒナリハ  
 用るにふさるのりともいふ  
 手平帯の食は強飯糖飯  
 の之品ありし

糖飯 糖飯 糖飯  
 糖飯 糖飯 糖飯  
 糖飯 糖飯 糖飯

二 小花粥

海人藻芥り中子月朔日小花粥の  
 裏化同以下令用信さし家や彼粥  
 粥法藻芥り豆焼ニシテ粥に入合ス也  
 云々

三 扇の骨と橋と

扇の骨は橋とりよ海人藻芥り中子持  
 扇廿五柄廿三柄と云々

四 扇の柄



海人産物中ノ魚類有シ長  
節平節細節扁節是也ト云ル

(五) 本邦の魚

大平記の本邦の魚の事云々海人  
産物中ノ本ノ魚ト云ハ相尾也  
那ト云ハ字治ホノ事也ト云

(六) 味噌の味噌云々

海人産物中ノ上ノ魚ノ上ノ魚ニヤト  
味噌ノ味噌クサキハノ事ナリト云ル  
口々ト云ルハ極致食甚公の記也  
ト云ル

後大平記廿世ノ同廿四世ノ同廿五世ノ同廿六世ノ

(七) 将軍の例

海人産物中ノ田舎枝の前の事云々  
此の事云々  
枝の事云々  
今も云々  
海人産物中ノ事云々

(八) 定家の忠告

定家卿 忠告の事云々海人産物中  
産物中ノ事云々

(九) 遠侍

和名云々  
和名云々  
和名云々

大平記世

海人藤原公下子遠傳と云傳ノ信スル所  
アリ小御所ナリ信也とあり昔書院  
左平記ナリも之も遠傳ノ所ナリ傳  
信ノ所ナリ也

⑩ 孫庇

曰考子ノ孫庇ノ孫子庇ト申ハ格皮  
蓋目之庇ノ如ク又板ヒサシヲ指シ也格  
皮蓋目ニハ時雨ノ音ナシトイハレ格ヒサシヲ  
指テ時雨ノ音ヲ聞召サレトイハレ格ヒサシヲ  
指シトイハレ格ヒサシヲ指シトイハレ格ヒサシヲ

庇ノ所ナリ也

⑪ 枚障子 并唐紙障子

今之世ハ枚障子トイフモノハ障子ノ一枚障子  
子ノ内ニハ唐紙障子トイフモノハ障子ノ一枚障子  
障子トイフモノハ障子ノ一枚障子トイフモノハ障子  
障子トイフモノハ障子ノ一枚障子トイフモノハ障子  
障子トイフモノハ障子ノ一枚障子トイフモノハ障子

⑫ 表故 并鏡像を障子

海人藤原公下子遠傳と云傳ノ信スル所  
アリ小御所ナリ信也とあり昔書院  
左平記ナリも之も遠傳ノ所ナリ傳  
信ノ所ナリ也

盛衰表一  
左平記世  
鳥羽子抄  
衣故

萬葉集  
日本文記  
平權録  
彩門廿五  
此全卷九  
七下

酒一献三  
杯を以  
むる

束の角用ル故之衣故ノ沙汰ハ兼スル  
重シ代ハ皆有敷束トテフクサニ  
クハ不調也ト云クハ同用代男局  
ノ毛ヲ抜キ髪ヲハサキ金ヲ付シ事  
始ルイハル也

③三献五献七献九献

日卷子マナ初ノ袴者无服袴徒  
以下祝酒者ハ必三献ト云ハ何モ  
時刻延ガルヤウニ取付也凡酒  
重量不及乱キ而後先齋院所

爰酒三杯所ノ座先程之者ニ酒  
宴者于数献ニ及ブト云ハ其節  
代アリ献数加増ニ于或ハ五献七  
献九献ニ于被聞召タリ依テ迄  
此酒名ヲ九献トシ申合ケル事

④

例部カクシム物カレ判  
ソ物ヲテクリ方ナリカト云  
具名

日卷子内裏仙洞將軍家ヲモシ食

多量の日記巻  
永正十四年正月  
全五十一巻  
一井一石二  
百三十三石  
此日記を  
高野にて

百石者多  
大正十四年  
一月十四日

物の買ひ代り  
給ふは供所  
味嘗のつばは  
奉結いおれ  
おすくりと  
とくをくす

同老より内裏  
人ノ所  
厨子所

十六 三度の供所

同老より毎日三度  
七籠かけ二種  
飯や餅召し  
かさかしの

十七 各鐘各杯

今の世各杯  
各鐘とを  
各鐘とを

十八 一サキとちの

穢と云ふ事といふは流説に云ふ事なり  
海人爲者思ふ事云々云々  
云々云々此一帖ヲ海人ノ爲者ト  
名付て之を

① 執事 再啓

海人爲者思ふ事云々云々  
之点ハ執事ト稱ス事以テ略稱  
答曰云々

② 鎌倉と云名執

鎌倉ハ非特其の義ヲ云非其の義也

み物と云名物と云一 谷を倉と  
しめり一 古事記傳ナラ意ハ記傳月  
抄等と見へ志づ一 長明殿に身  
二の巻ナリト東塔の外ナリト云  
初ハ其の比古ハ相模ノ浪士ト云  
ハハ鎌倉大五ノ鎌倉と稱す  
起リ云々一 御林系宮上ト云

③ 年代記のいふ事ハ如是院年代

和漢合運記

記の二三... 早いゆりし... 此頃中の  
信名... 後張の真福寺より得てし  
とふ... 永祿元年の  
利... 夫年皇代之記...  
稱... 未得... 神代  
雅... 部家... 神代  
後... 即位... 十五年  
即位... 之曰... 五年  
雅... 記... 證...  
之... 元... 大... 略... 年

号... 有... 同... 真... 偽... 難... 決... 因... 書...  
細... 文... 武... 五... 年... 大... 家... 来... 雅... 勝... 家...  
本... 尚... 是... 有... 過... 勿... 悔... 改... 身... と... あり... け... 本...  
残... 缺... 三... 葉... あり... 一... 葉... 継... 體... 天... 皇... 十... 六...  
年... あり... 廣... 帝... 五... 年... 二... 葉... 且... 次... 廣... 帝...  
年... あり... 後... 治... 宗... 康... 平... 四... 年... 二... 葉... 今...  
一... 葉... 後... 光... 嚴... 負... 治... 元... 年... あり... 今... 上... 皇...  
帝... 皇... 三... 年... 永... 祿... 元... 年... 二... 葉... 神... 代... あり...  
継... 傳... 十... 五... 年... 十... 七... 葉... 缺... 亦... 康... 平... 五... 年... あり...  
康... 安... 元... 年... 十... 七... 葉... の... 間... 缺... あり... 〇... 継... 傳...

十六年のあまの世に書き善記と云ふの舒  
 明十二年の五、五、五、志、隱、溝、双、老、經、于、宮  
 人、溝、始、也、と云ふ。○慶長七年のあまの宮  
 麻、勞、陀、出、現、云々。○後一條万壽四年の  
 四月大雪、四尺五寸云々。○後小松在永九  
 年、二月三日唐船来朝云々。○稱光院在  
 永廿二年の六月十三日吉神、入洛云々。○  
 同廿九年の七月十二日日出云々。○後花園  
 永貞六年の唐船来朝云々。○同永中  
 文安元年の唐船来朝云々。○長祿元年

二十、十、様、澤、地、成、立、云々。○同二年の正  
 廿九日、二、出、向、山、二、白、満、月、出、云々。○寛正  
 三年の四月八日、三、日、並、出、云々。○同四年の正月  
 三日、出、同、六、日、二、現、云々。○

世に金鼓、鷲、口

一の金鼓、鷲、口、の、子、の、名、抄  
 鼓、一、口、正、面、外、陣、懸、之、と、云、云、の、中、学  
 可考

世にス、ア、ア、の、故

重師、徳、仁、記、三  
 三、下、ウ、人、沈、ラ、湖、リ、三  
 全、ラ、ス、テ、湖、ノ、新  
 白、ウ、入、リ、テ、湖、ノ、新  
 啓、家、武、同、七、ノ、ア  
 水、島、記、下、三、ノ、ア  
 三、ノ、ア、ノ、ア、ノ、ア  
 三、ノ、ア、ノ、ア、ノ、ア

左、朝、神、三、十、四、管、三、品、の、金、鼓  
 銘、并、序、抄  
 和、名、抄  
 和、名、三、品、音、辨、現、證、集  
 七、卷、七、ノ、ア

諸家 伎帳 履洲 瀆 瀆形 三類 也  
の伎あり 太平記 にも 記す 倭 刊  
集 子 某 類 二 同名 あり 洲 瀆 の 家 以  
と 同 こと あり 設 此 洲 瀆 古 今 存  
ま 之 類 取 雜 あり 其 の 圖 以 載 して  
今 の 島 名 あり 故 此 洲 瀆 二 某 類  
の ぬ 了 之 の 形 あり 之 義 こと 字 も 又  
ハ 之 と ス 了 之 を 異 じ ス 了 二 類 と 之  
製 する 物 も 其 味 也 一 種 粗 類  
の 義 の 名 也 一 野 々 々 々 今 也 了

マ 之 葉 類 あり 小 切 了 之 形 也  
凡 之 類 物 也 大 豆 の 粒 也 類 也 あり  
う 之 也 武 蔵 府 中 之 所 宮 之  
佐 物 也 古 来 あり 了 二 以 之 あり  
類 也 類 也 知 之 事 也 類 也 類 也  
類 也 類 也 了 二 形 也 了 二 類 也  
三賢一致書とて一巻あり 端 子 儒  
釈道の三道一に 歸 以 之 也 了  
賢一致と号 以 大 統 類 也 あり 奥

世 三賢一致書 抜書



子文係丁巳元年とありて古書に  
外題云三皇一に祀と云なりて刊  
行せり人の胎内ニ姦せりて生る  
中なる子也假名書云一に云  
○禰神道はおしての國書云首等と  
号以云○狩神道は女日月と示  
申すりてと云合云明神と云なり  
云○狩天狗道はおしての陽成  
妙善月主と号一陰と云金昆  
羅赤女と云云○狩は云々

つてそのをいひくわつて又二神は  
トくその勝とびくわつて云○狩  
その鶴鶴は大和國宇多郡白鳥明  
神と云なりその鶴鶴と云ふ  
今の宇多郡は大明神の所  
社と云云○高徳云空知以前  
今日も異なり神明の所なり  
つて伊月良則と云

海山と我身しけり ○ 狩神を  
えん三種の神器ありき ○ 稲天神  
七代より ○ 三荒神とて神の心し能  
能くもいひぬれども 三寶具 三荒神の心  
きづらうわのよまはしぬらも 本尊の  
如来しき ○ 稲地球の代き ○  
相了の言よん 出息けり 神々の言よ  
神々の言よ 神々の言よ 世  
神の神といふいさのいん  
あはれとて神のやうに我身ん

りぞ入るまはけり 同字異字云  
地水火風空計の神の我身ん  
いそ入るまはけり ○ 又左神を  
の神歌種  
まづの神の言よ か  
くまの神の言よ か  
大和国三輪大明神 江州多賀明  
神 十月 地時雨あり  
○ 狩歌道 夫  
○ 世の弘法大師の歌よ

二の巻と云はせのつとあるやうに  
あうんの二字をあるかたの  
たるうしよのあはれおかし  
ふれよのあはれおかし

朝鮮記

大河内秀元の朝鮮記と云二巻  
あり巻首に朝鮮記大河内成  
左衛門尉源朝五秀元記と  
漢文の自序あり秀元は河内人  
て大田飛騨守なり  
従ひ朝鮮子

海に戦功ありて寛文六年  
七月廿日号九十一と  
其度長二年朝鮮渡海の事

勢

度長二歳三月廿日

朝鮮記上之公子統前中納言秀元  
源公より朝鮮征伐之大將軍と  
爲し高麗國釜山海之城主に任す  
大田飛騨守越右内藏允早河主  
馬首見和泉守福原右馬助氏  
前民部大輔竹中伊豆守より

豊公受事録大明神箱と  
ありて私に二十万馬有るなり  
はよりし居候なり  
大河内秀元より  
朝鮮の事より  
其の事より  
米三百石俵に  
之の事より

諸軍之舉行ト相流フ軍勢云々大  
小名四十二人其勢都合十六万三千  
餘騎云々

廿七 朝鮮人唐人の首級

同書中卷ニ豊基平原ノ軍勢十六  
万騎カ討夫元三韓人ノ首級十八万  
五千七百三十八大唐国仁ノ首級二万  
九千十四總テ二十一万四千七百五十二  
平安城ノ東ナル大佛殿ノ塔ノ中  
筑土築ノ石塔ヲ立テ貴賤ノ別ニ是ヲ

見ル云々

廿八 豊臣大岡の遺書

同書中卷ニ文披月上旬ノ頃ヨリ大相  
国以何トナリ御遺例ト風聞ス云々十音  
ノ朝ニ孝威王ヲ召テ所硯料紙ヲ  
落クニヒ御筆ヲ深賜フ

- 一ヨクヲハナルベキ
- 一女ニ心スルナリ
- 一大ガケタルナリ
- 一アサ子スルナリ

一 人ニ物アラツフナリ  
 一 身ノモノハツシムナリ  
 一 川ニオダベキナリ  
 一 敵ニオダベキナリ  
 一 内ノモノニオダケアルナリ  
 一 何ノモノナミナリ  
 一 物ニタリツツスルナリ  
 一 何ヲモツク物ヲヒケスナリ  
 一 何ヲモ  
 露ノ世ニツツトキエニシ我身ツナリ

トソ遊バシケルモ  
 冬ナニハモモツクノニクムソ

同書下大岡堂豊五公病中の子供記と  
 一 多ク云中ノ丸ノ所守殿木村宗喜が  
 造りケル高鴨居等折入ノ天  
 井ニテモ金鑪具ノ高暗鏡ニテ襖  
 障子張付惣氣行狩野長谷川  
 ガ見モリキ畫タル唐子ノ人傳極彩  
 鮮ニ彩リニ万三万ト云作ヲ知ズ僅ガル









しるまの何のいふか  
さかしくは海にんせ  
あまのしむ村の  
をきくにかみ二  
三の酒をほくま  
かこ五こいふ  
ひかきしむい  
ふとと  
あつしむ

ふたつ  
ふたつ

肥の帯

は書といふ  
をきく  
かつと  
らん  
尚あつ  
の時  
たあ

と衣と帯裳地ぬき以て袋の  
中に入りたるものありとて  
手鏡をつかき引しるもの  
ありありとくまんとてくま  
んとてくまんとて

廿五 天狗兵衛

同書より天狗兵衛の  
やつのやつばつとも  
りあつたよりのあつた  
あつたよりのあつた

今より  
天狗兵衛  
のあつた  
よりのあつた

あつたよりのあつた  
あつたよりのあつた

廿六 梅津長者の巻中 考證

廿六 梅津長者の巻中 考證  
子備の巻  
上取の馬  
忠徳 ○ 見世桐 ○ 竹馬の書  
高 ○ 團扇 ○ 夷三節殿 ○ 高  
うす ○ 紙障子 ○ 少部  
えん ○ 高 ○ 稻荷の狐  
天 ○ 鏡表 ○ 鉞子 ○ 天目  
○ かりし表かりし  
○ 朱漆の

忠徳  
高

桶のつが  
 奉養記  
 権名あり  
 三ノ才  
 事考文あり  
 三ノ才  
 カッラ  
 口ハ世  
 大郎柳三郎  
 柳三郎柳三郎  
 又廿七  
 五桶ノカッラ

○提子 ○豆大鼓 ○布袋 和尚  
 ○軍配 團扇 ○嶋彦 ○瓶子  
 ○太鼓 枵 ○相撲の肌帯 ○雨  
 口 釧子 ○簞 ○燭 産 ○琵琶 ○  
 琴 ○襖 障子 ○唐軟 取 ○ヤラ  
 少アタニ ○ヲリハ盤 ○車井 ○  
 桶 ○ 鴨 舟 ○ 以上の品 尚 あり  
 乙 貞子 土左内記 唐 澄 筆 と あり  
 唐 澄 筆 い の 民 の 人 此 画 卷 の 事  
 好 古 小 録 あり あり

○地一夜千本の本生流

真如堂 阿彌陀佛 上 卷 上 圓融院  
 永観二年の春 戒筆上人の夢に老  
 信来り云ふに 神樂星の夢に 長尺五  
 の松木千本 一夜中生長する所あり  
 づし 是即佛法有縁之地衆生  
 救度し 夢中 世 相應 真正 極樂  
 の聖地也 此夢を 驚て 上人 急か 弟  
 子 信を 下しん 見きし 子女院 教  
 宮の境内 子日 比し ぬ 松木 生じ

たもも磨也也今の東山真也老の  
麦地是也北野の北野一夜松  
の下の北野倚起大平記也と云ふ  
同の法と云ふ

○金燈呂田并庄園名領保

同書中是也。安嘉門院并他  
内依仍て攝津國柳津庄橋  
園河尻之内。老貞名橋橋之内。為  
燈油札。乃寄。道之是。則庭上。金  
燈品也。名者石又云義作園  
燈品也。

田庄之内藤田里地頭職云々同書  
下巻の義作園大葉邸真嶋庄云々  
御下邸下庄あり庄下園あり里  
ありさるも庄園の邸郷里村とな  
る。この國邸郷里と云國下の邸郷下  
郷郷下里あり里と村といふ所  
又保あり保の組合村といふ義を又  
異し名と云ふあり今の出作の田地の  
是他郷と出領したるもの名を負  
ふ。ば郷里より大丸小丸あり



名 <sub>10</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 心 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
伏 <sub>11</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
女 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
大 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>
阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>	阿 <sub>1</sub> 阿 <sub>1</sub> 焉 <sub>1</sub> 延 <sub>1</sub>	川 <sub>1</sub> 斗 <sub>1</sub> 比 <sub>1</sub>

Blank page.



